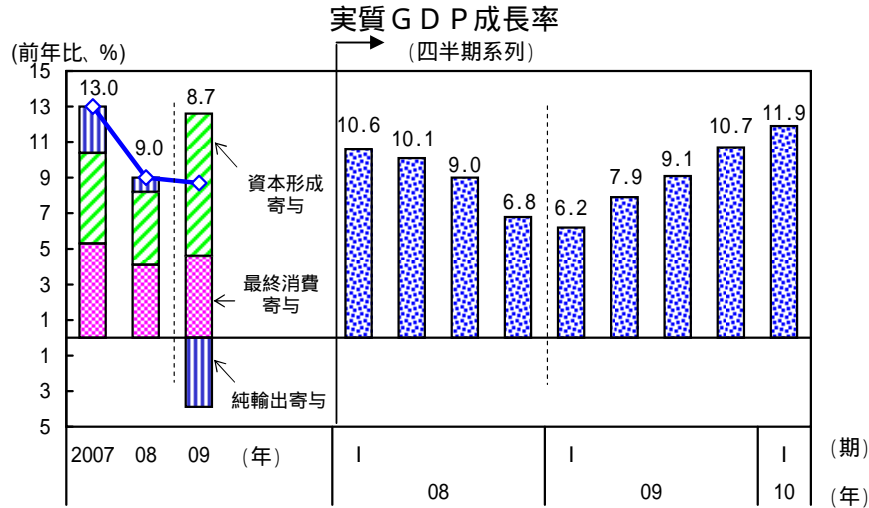
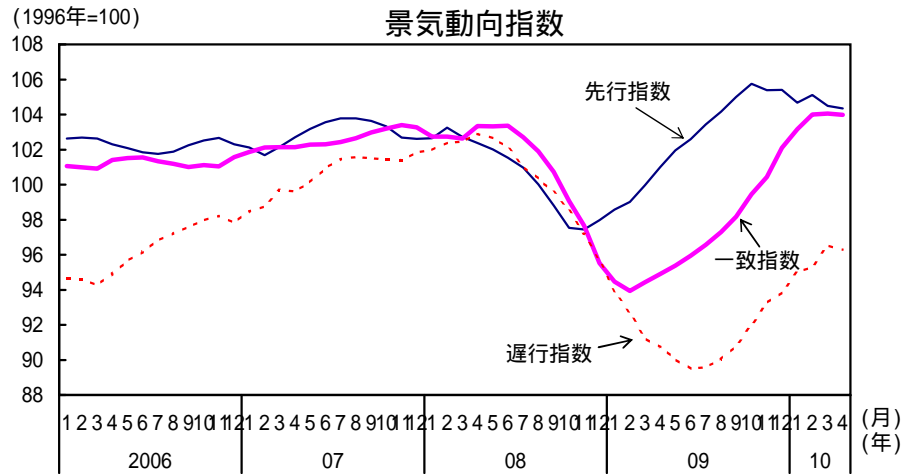


2. アジア地域

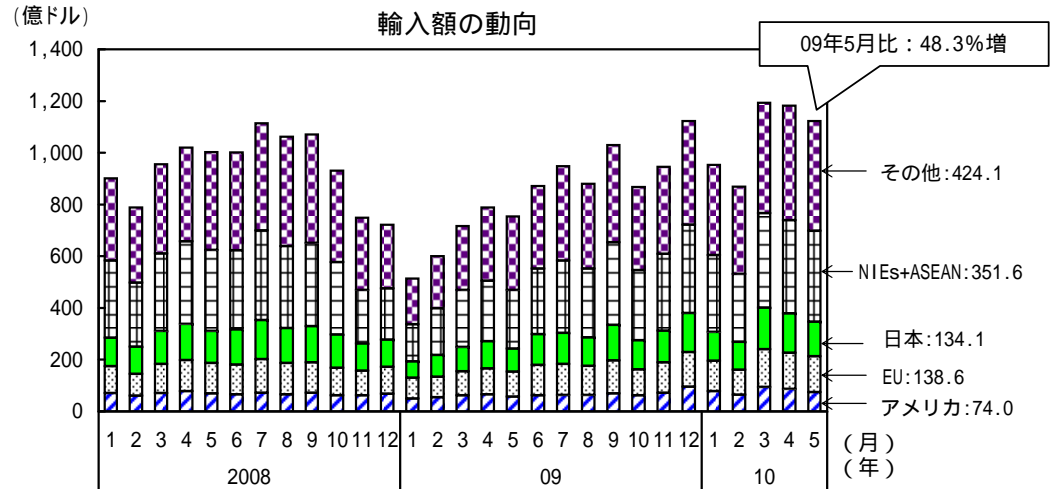
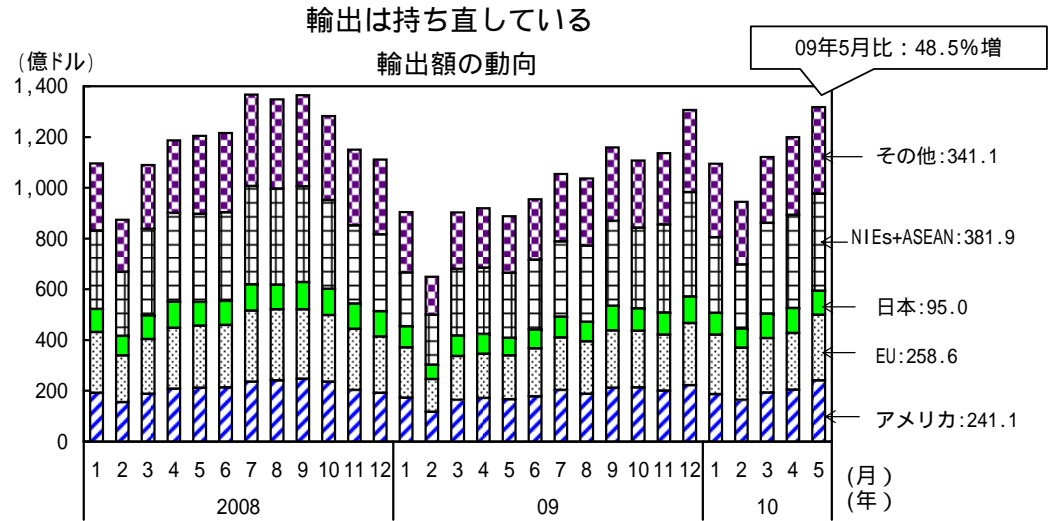
中国： 中国では、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に拡大している。先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、マネーサプライの急増によるリスクには留意する必要がある。



- (備考) 1. 中国国家统计局より作成。
 2. 中国人民銀行の試算によると、中国の前期比年率のGDP成長率は、08年10-12月期4.3%、09年1-3月期9.5%、4-6月期11.4%、7-9月期11.0%、10-12月期11.3%、10年1-3月期12.2%。
 3. 基準改定のため、09年以降の数値は接続していない。



- (備考) 1. 中国国家统计局より作成。
 2. 一致指数は鉱工業生産等の8指標、先行指数は消費者期待指数等の8指標、遅行指数は個人預金残高等の5指標から構成されている。

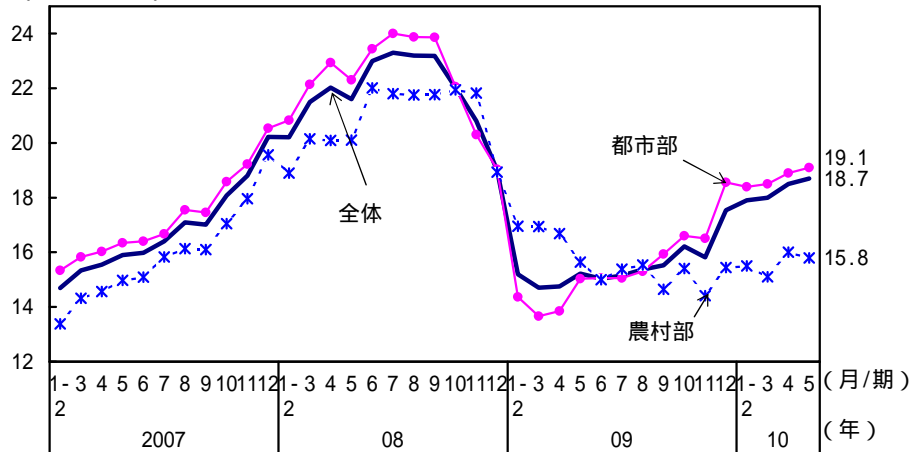


- (備考) 1. 中国海関総署より作成。
 2. グラフは原数値。

消費は堅調に増加

社会消費品小売総額

(前年比、%)

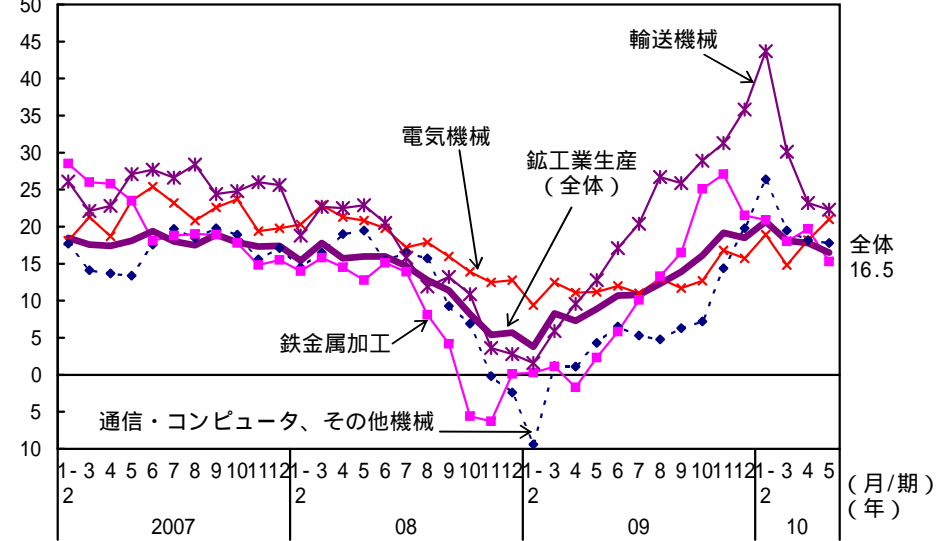


- (備考) 1. 中国国家统计局より作成。
 2. 09年のシェアは、都市部68%、農村部32%。
 3. 中国では、消費刺激策として、排気量1.6l以下の乗用車の車両取得税の減税(09年1月~10% 5%、なお10年1月からは7.5%)、農村における家電の普及政策(「家電下郷」)の全国展開(09年2月~)、農村における自動車の普及政策(「汽車下郷」)(09年3月~)を実施している。さらに、09年6月から、自動車の買換え促進策や、9省・市において試験的に家電の買換え促進策を実施している(「以旧換新」)。

生産は増加している

鉱工業生産

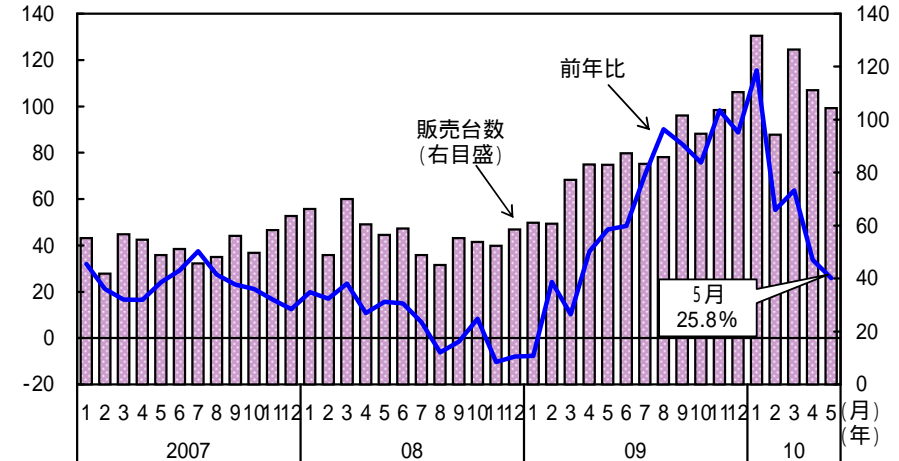
(前年比、%)



(備考) 中国国家统计局より作成。

乗用車販売台数は政策効果もあり大幅に増加

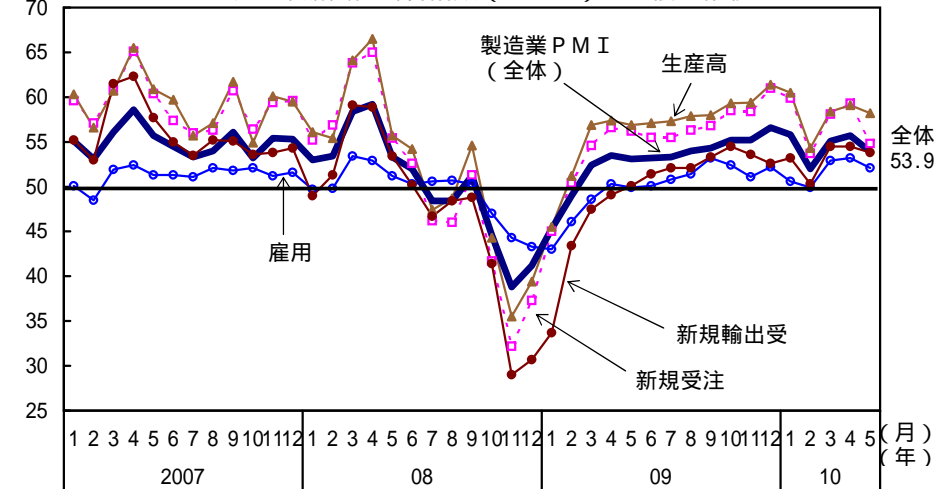
(前年比、%)



- (備考) 1. 中国汽车工业协会より作成。
 2. 春節(旧正月)は、08年2月6~12日、09年1月25~31日、10年2月13~19日。
 3. 2009年の販売台数は約1033万台。

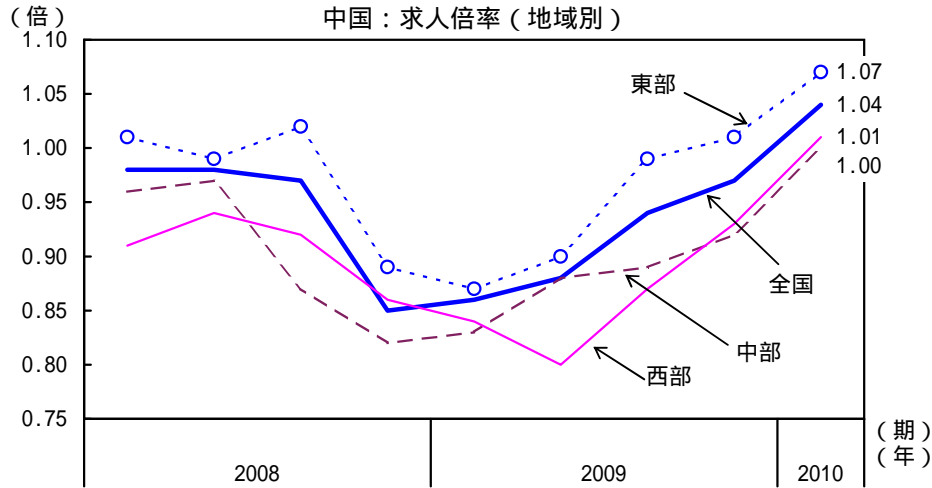
製造業購買担当者指数 (PMI) は堅調に推移

(ポイント)



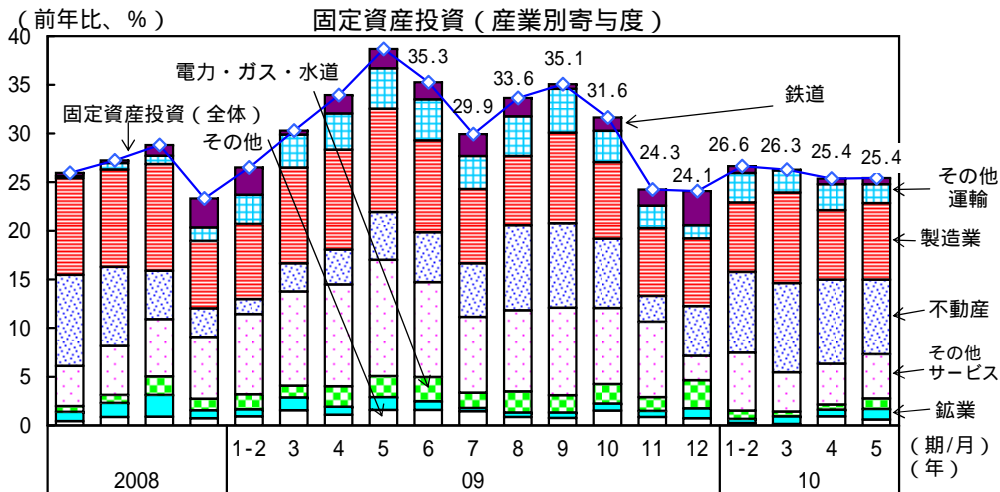
- (備考) 1. 中国国家统计局より作成。
 2. 製造業PMIは、製造業の業況に関わる11の項目について企業調査を行い、各々が前月に比べてどう変わったのかを集計したもの。製造業PMI(全体)は、生産高、新規受注、原材料在庫、雇用、サプライヤー納期の5つの指標から合成される。PMIが50より高ければ、「改善/増加」と回答した企業の割合が多いことを表す。

労働需給はひっ迫傾向



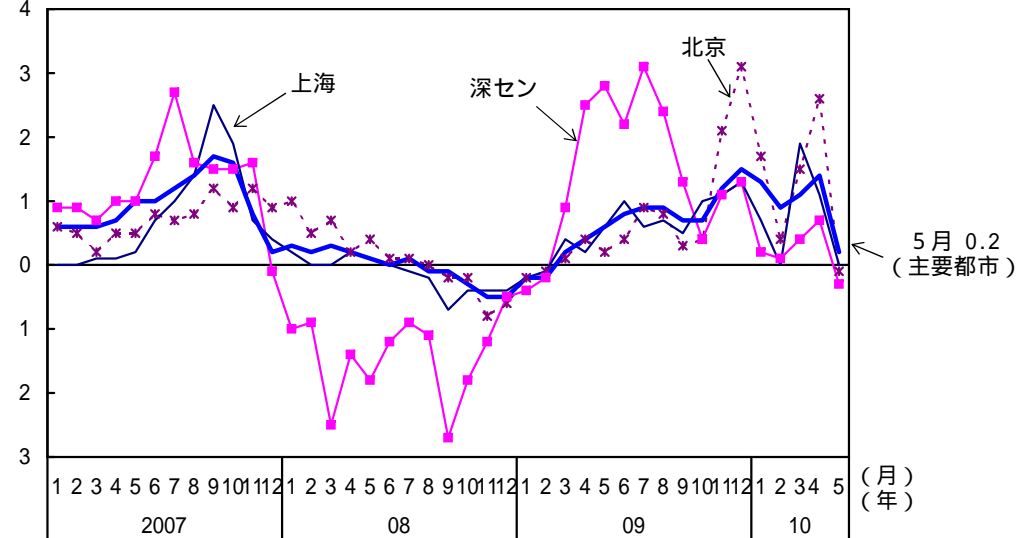
- (備考) 1. 中国人力資源社会保障部より作成。
 2. 東部は、珠江デルタ、長江デルタ、環渤海などの沿海部都市を含む地域。中部地域は、河南省、湖北省等。西部は、重慶、四川省等。

固定資産投資は高い伸びが続いている



- (備考) 1. 中国国家统计局「都市部固定資産投資」より作成。
 2. 県以上のレベルの政府機関、企業等によって実施される投資プロジェクトで、中国全体における固定資産投資の86%（09年）を占める。
 3. 不動産開発投資については、09年11月に土地購入費に関する統計の変更が行われた。

主要都市建物販売価格（前月比）



(備考) 中国国家统计局より作成。

中国：最近の不動産関連引締め策

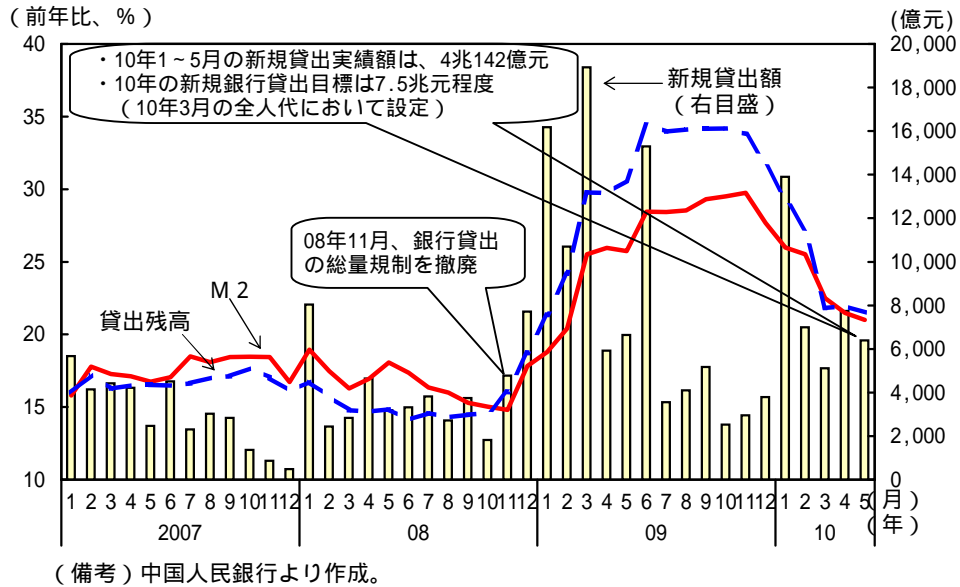
2009年12月以降、中国政府は相次いで不動産関連引締め策を打ち出す。

2010年4月17日には、以下の住宅向け貸出抑制策を発表。

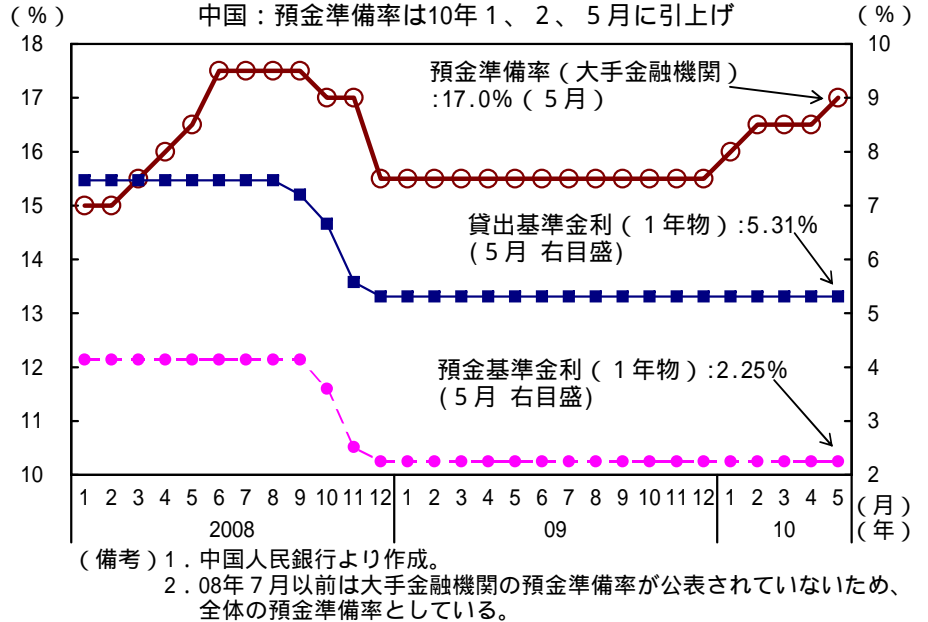
- ・ 1軒目の住宅購入時の頭金比率を30%以上。
- ・ 2軒目を購入時の頭金比率は50%以上、貸出金利は基準金利の1.1倍以上。
- ・ 3軒目以上の住宅購入時の頭金比率と貸出金利は大幅に引上げ。
- ・ 住宅価格が高騰し供給がひっ迫している地域においては、3軒目以上の住宅購入資金の貸付けを一時中止できる。
- ・ 当該地域に1年以上居住した証明がない者への住宅購入資金の貸付けを一時中止できる。

2010年5月31日、中国政府は徐々に不動産税改革を進める方針を示した。

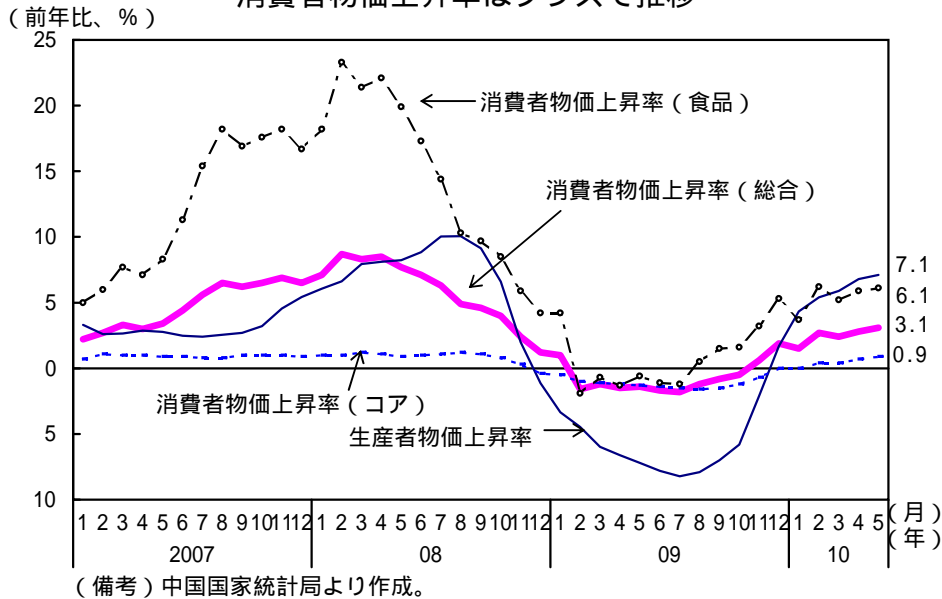
マネーサプライは、減速しつつも高い伸び



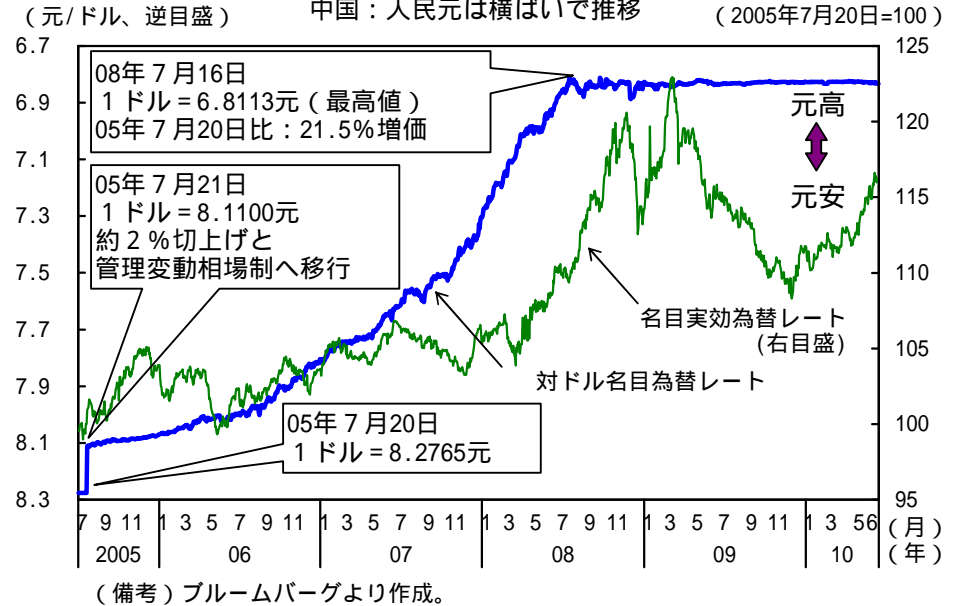
金融政策の動向



消費者物価上昇率はプラスで推移



中国：人民元は横ばいで推移

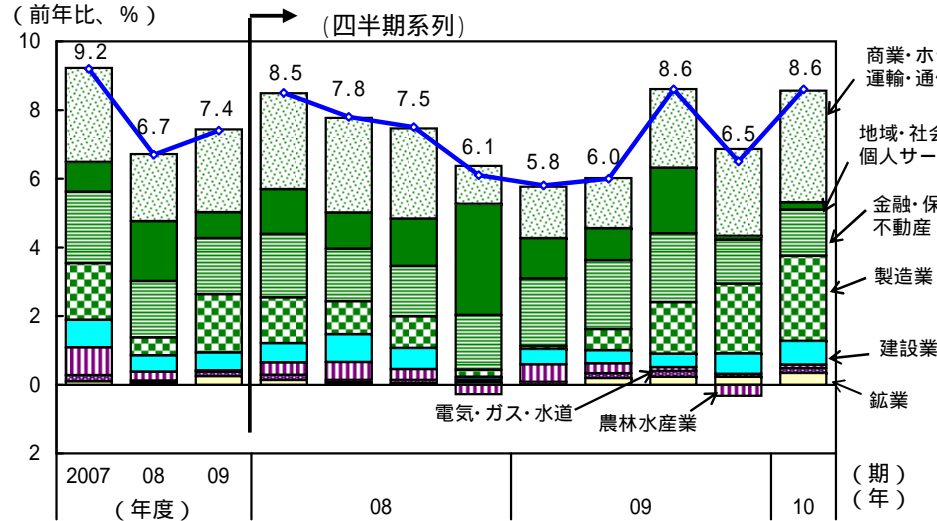


インド：

インドでは、景気は内需を中心に拡大している。
 先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。

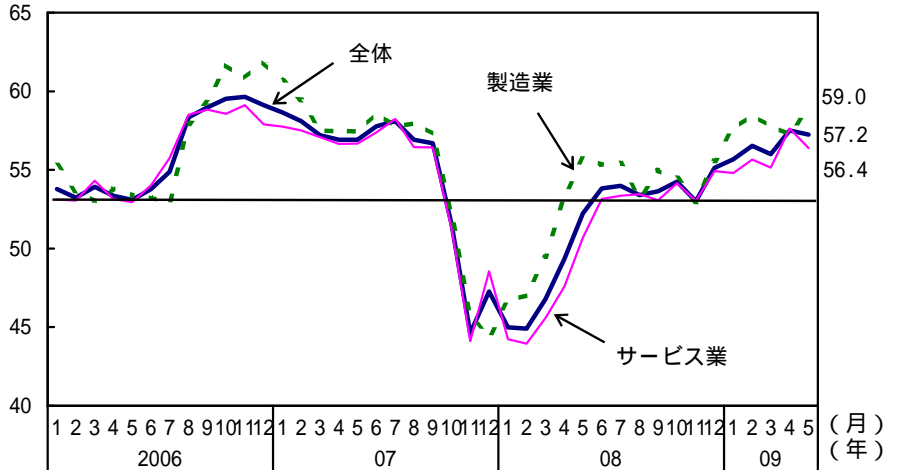
ただし、物価上昇によるリスクには留意する必要がある。

実質GDP成長率



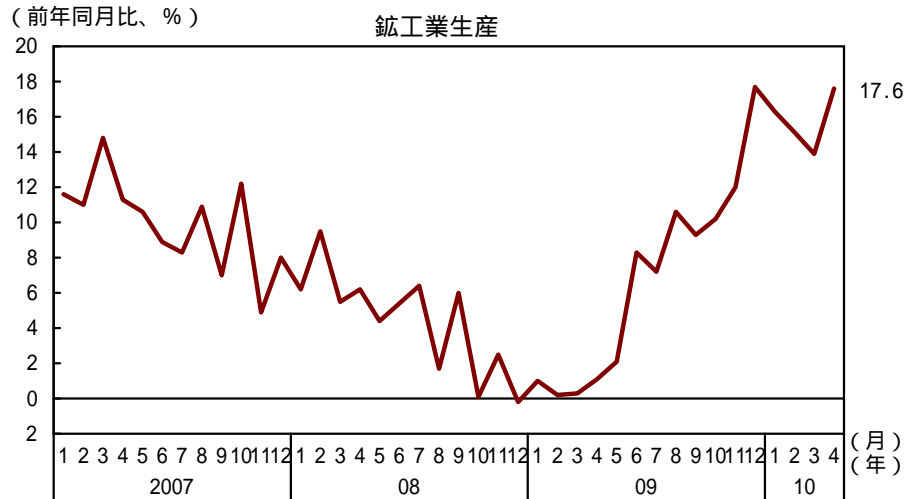
(備考) 1. インド中央統計局より作成。
 2. 年度は財政年度(4月~翌年3月)による。

購買担当者指数 (PMI) は堅調に推移



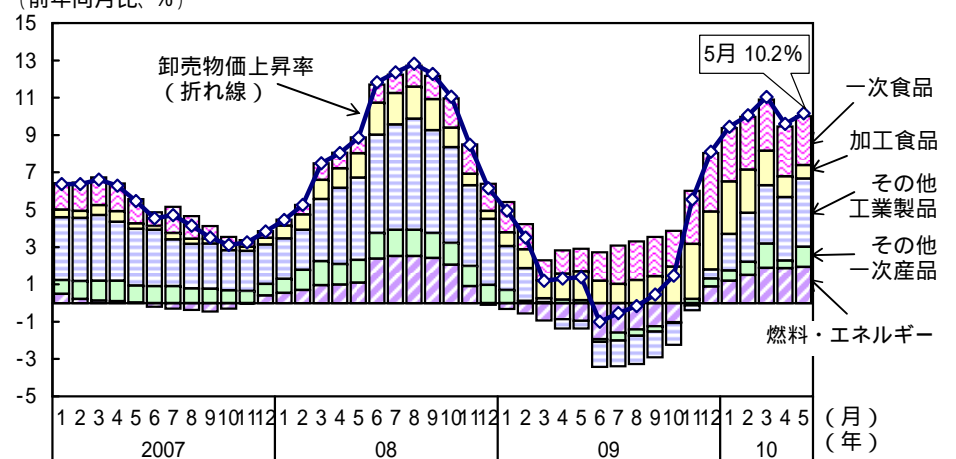
(備考) 1. マークイット社より作成。
 2. PMIが50より高ければ、「改善」と回答した企業の割合が多いことを表す。
 3. 全体指数は、製造業指数、サービス業指数それぞれをGDPシェアで加重平均して

生産は増加している



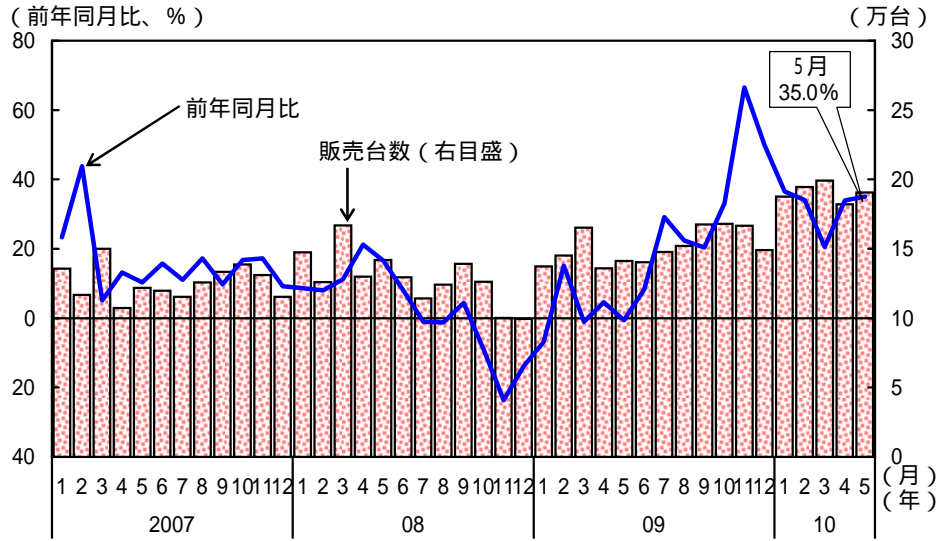
(備考) インド中央統計局より作成。

卸売物価上昇率は高まっている



(備考) 1. インド商工省より作成。
 2. 卸売物価上昇率はインド政府・金融当局が最も重視する物価指標。

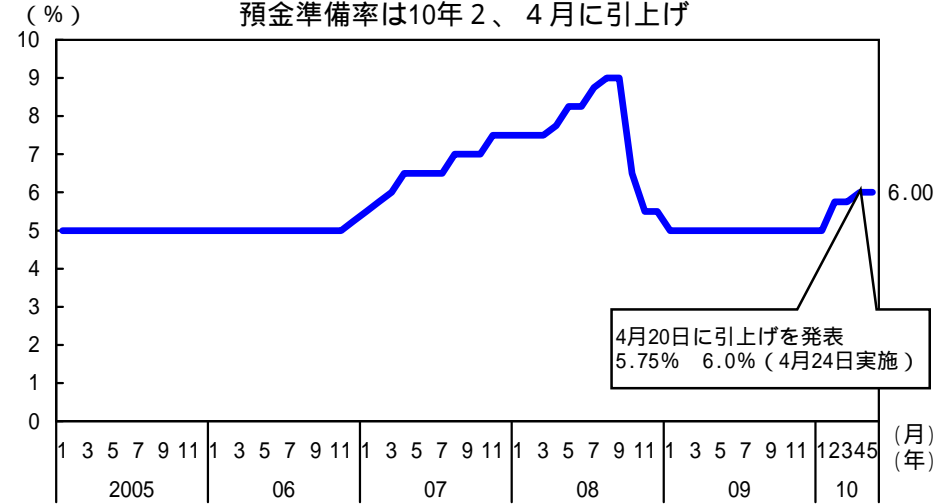
国内乗用車販売は増加



(備考) 1. インド自動車工業会 (S I A M) より作成。
2. 2009年度販売台数は約195万台。

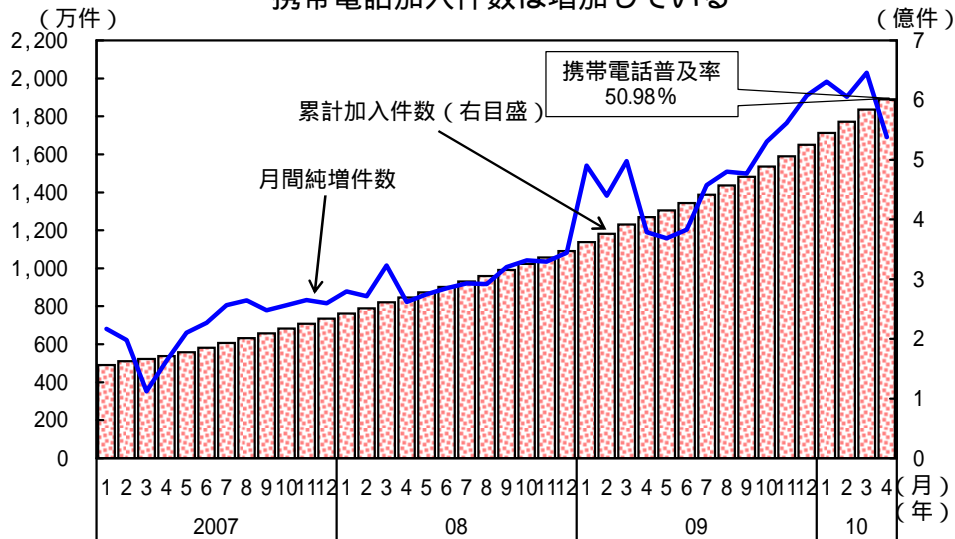
金融政策の動向

預金準備率は10年 2、4月に引上げ



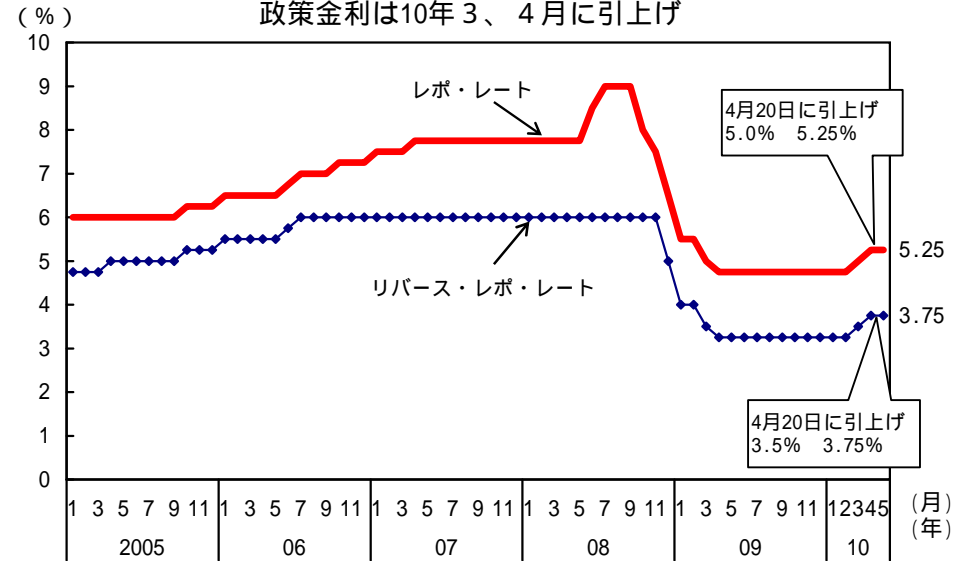
(備考) 1. インド準備銀行(中央銀行)より作成。
2. 09年10月27日、インド準備銀行(RBI)は、国内商業銀行が保有しなければならない国債やその他政府指定債券の預金総額に対する比率である「法定流動性比率 (SLR: Statutory Liquidity Ratio)」を1%引き上げて25%とすると発表した(11月7日から実施)。

携帯電話加入件数は増加している



(備考) 1. インド電気通信規制庁 (TRAI) より作成。
2. 日本の携帯電話普及率は、91.0%(10年3月末)。

政策金利は10年 3、4月に引上げ

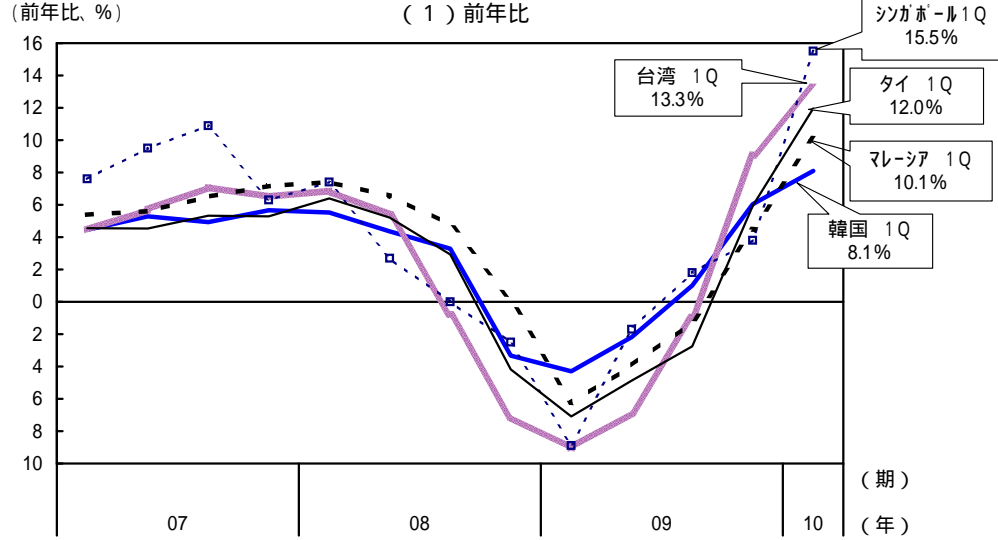


(備考) インド準備銀行(中央銀行)より作成。

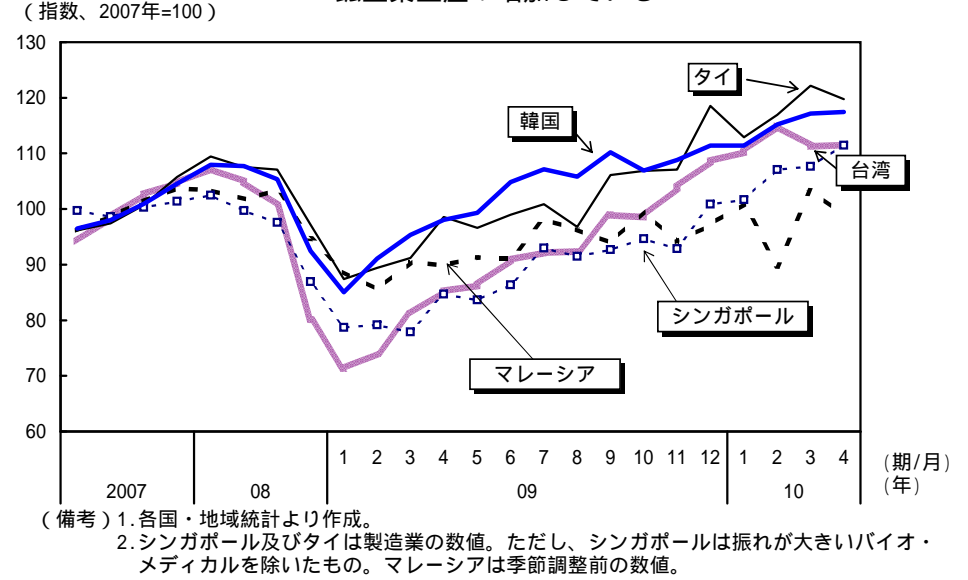
その他アジア地域：

その他アジア地域では、景気刺激策の効果や中国向け輸出の増加もあり、総じて景気は回復している。先行きについては、引き続き中国向けの輸出が堅調に推移するとみられること等から、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米等先進国向けの輸出の低迷が続くこと等により、本格的な回復が遅れるリスクがある。

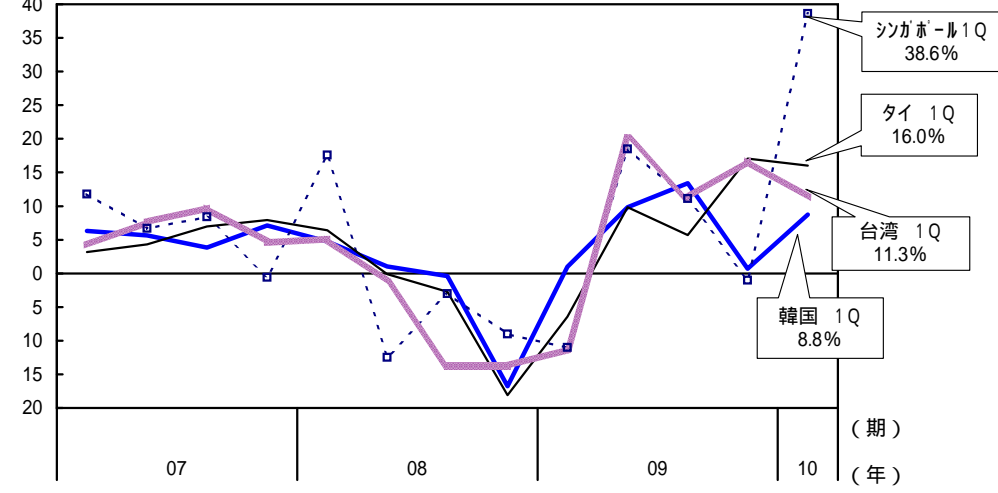
実質GDP成長率



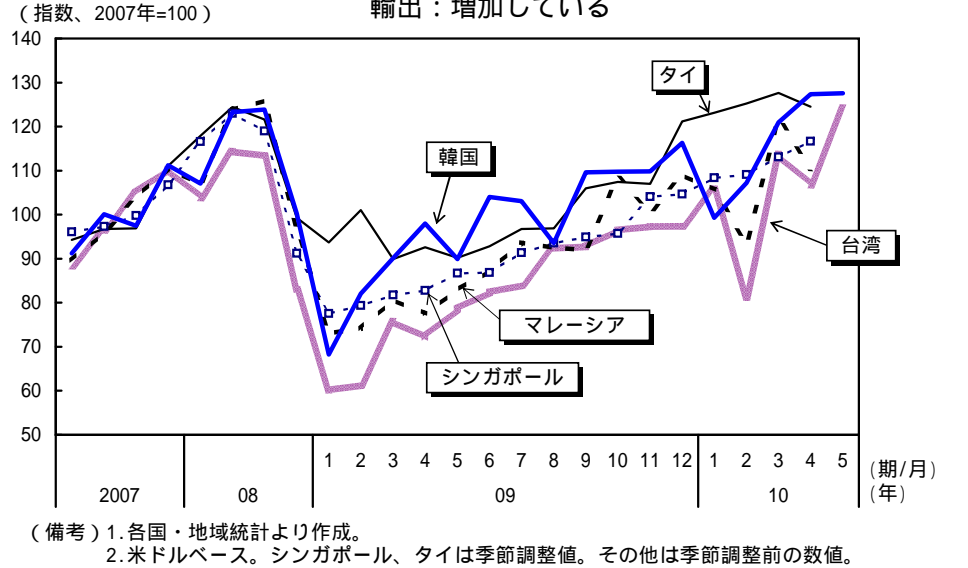
鉱工業生産：増加している



(前期比年率、%) (2) 前期比年率



輸出：増加している



(備考) 各国・地域統計より作成。